

鍵盤ハーモニカによる出前コンサートの実践報告

新井 恵美

宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要 第10号 別刷

2023年8月31日

鍵盤ハーモニカによる出前コンサートの実践報告[†]

新井 恵美*

宇都宮大学共同教育学部*

本稿は、2022年度に栃木県内3小学校で実施した、鍵盤ハーモニカによる出前コンサートの実践を報告するものである。コンサートにあたっては、児童が一度は聴いたことがあると思われる楽曲を選んだり、使用楽器、曲順を工夫したりと、児童が飽きないプログラム構成を心がけた。コンサート後、表現を工夫する児童がみられたり、休み時間に鍵盤ハーモニカを取り出して吹く児童がいたという報告があったりと、概ね好評であった。

キーワード：鍵盤ハーモニカ、出前コンサート

1. はじめに

2020年、新型コロナウイルス感染症の流行が始まったことにより、学校教育にもその影響は及んだ。音楽科においては、「リコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏」が、感染症対策を講じてもおお感染リスクの高い活動¹として挙げられ、活動を制限されることとなった。当然、筆者が実施している、学校等での鍵盤ハーモニカによる出前コンサートも例外なく制限されることとなった。2022年になってようやく、授業でも鍵盤ハーモニカを使った活動が再開されるようになり、筆者の元にも学校からコンサートの依頼が入るようになった。

本稿では、2022年度に実施することができた、鍵盤ハーモニカによる出前コンサートの実践を報告する。

2. 実践

2022年度は、3件の出前コンサートを実施した。いずれも、栃木県内の小学校で、2023年2月に実施したものである。以下、実施順に報告する。

(1) A小学校

A小学校多目的室において、午後、第2学年児童を対象に1時間(45分)のコンサートを実施した。当日のプログラムは、以下のとおりである。

- ① S. ジョプリン：ジ エンターテイナー
- ② J.F. ワーグナー：双頭の鷲の旗の下にOp.159
- ③ R.M. シャーマン、R.B. シャーマン：小さな世界
- ④ A. プライアー：口笛吹きと犬
- ⑤ L. アンダーソン：シンコペイテッド・クロック
- ⑥ 栗原正己：ピタゴラスイッチ オープニングテーマ
- ⑦ D. カハレフスキー：組曲「道化師」Op.26よりギャロップ
- ⑧ 井上武士：チューリップ
- ⑨ L. イェッセル：おもちゃの兵隊の観兵式Op.123
- ⑩ 久石譲：さんぽ
- ⑪ J. ドッド：ミッキーマウス・マーチ
- ⑫ 坂田おさむ：ありがとうの花

楽曲の選定については、以下の点に留意した。

全体を通して、第2学年の児童が一度は聴いたことがあるような楽曲で構成した。例えば、《シンコペイテッド・クロック》はA小学校が使用している音楽科教科書の第1学年用に掲載されているし、《双頭の鷲の旗の下に》、《口笛吹きと犬》、《ピタゴラスイッチ オープニングテーマ》はテレビ番組やCMで使用されていて、《双頭の鷲の旗の下に》、《組曲「道化師」よりギャロップ》は運動会などで聴くことが

[†] Emi ARAI*: Report on the Practice of Delivery Concerts with Keyboard Harmonica
Keywords: Keyboard Harmonica, Delivery Concerts

* Cooperative Faculty of Education, Utsunomiya University
(連絡先: arai@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

あろう。

また、《ジ エンターテイナー》は、当日午前
に本学学生による出前授業において取り扱った楽
曲であり、そこでは学生による鍵盤ハーモニカ、
クラリネット、ユーフォニアム、打楽器による重
奏を第2学年児童に鑑賞させる活動が含まれて
いた。そのため、鍵盤ハーモニカで実施するこ
とで、編成による曲想の違いを感じ取ってもら
えたらと考え、選曲した。

そして、コンサート自体は45分ではあるが、
曲間の楽曲紹介などの時間も踏まえ、演奏時間
は20分程度にとどめた。それから、《ピタゴ
ラススイッチ オープニングテーマ》は曲の雰
囲気を踏まえて鍵盤笛を使用することとし、
《チューリップ》は担当の先生からのリクエ
ストにより頭で演奏した。

さらに、終わりに近づくにつれてポピュラ
ーな楽曲を配置したり、大人用の楽器や児童
が使用しているものと同じ楽器、珍しいデザ
インの楽器を使用したりすることで、児童が
飽きないようなプログラム構成を心がけた。
なお、《ありがとうの花》は、児童の歌と筆
者の鍵盤ハーモニカ演奏のコラボレーション
を企画した。

写真1 A小学校での鍵盤ハーモニカ演奏



写真2 鍵盤笛による演奏



(2) B小学校

B小学校体育館において、全校児童を対象に、朝
の音楽集会での約20分のコンサートを実施した。
本来は2022年11月に実施する予定であったが、
学級閉鎖等により延期されたものである。当日の
プログラムは、以下のとおりである。

- ① R.M. シャーマン、R.B. シャーマン：小さな世界
- ② J.F. ワーグナー：双頭の鷲の旗の下に Op.159
- ③ A. プライアー：口笛吹きと犬
- ④ L. アンダーソン：シンコペイテッド・クロック
- ⑤ D. カバルフスキー：組曲「道化師」 Op.26よりギャロップ

A小学校と同様、選曲にあたっては、児童が一度
は聴いたことがあると思われるものを並べた。

写真3 B小学校での鍵盤ハーモニカ演奏



(3) C小学校

C小学校体育館において、第4学年児童を対象に、音楽の授業の中で約20分のコンサートを実施した。当日のプログラムは、以下のとおりである。本来、①～⑤を予定していたが、直前に担当教諭の要望により、急遽⑥を追加し、頭を使って演奏することにした。

- ① R.M. シャーマン、R.B. シャーマン：小さな世界
- ② L. アンダーソン：シンコペイテッド・クロック
- ③ J.F. ワーグナー：双頭の鷲の旗の下に Op.159
- ④ A. プライアー：口笛吹きと犬
- ⑤ D. カバレフスキー：組曲「道化師」 Op.26よりギャロップ
- ⑥ 井上武士：チューリップ

C小学校では、45分の授業前半をコンサート、後半を教材《ラ クンパルシータ》の指導にあてて欲しいとリクエストがあった。また、対象児童は第1学年の終わりからコロナ禍に突入し、鍵盤ハーモニカを使った活動がほとんどできていないことから、タンギングをはじめとするいくつかの演奏技法を少しずつ増やしていくような曲順とした。B小学校と楽曲は同じであるが、曲順が異なるのは、そのような意図があったためである。曲の説明の際には、その技法に注目して聴くよう促した。

写真4 C小学校での鍵盤ハーモニカ演奏（この後児童が演奏する活動が控えているため、児童は間隔を空けて座っている）



写真5 《チューリップ》を頭を使って演奏しているところ



3. 成果と課題

C小学校ではコンサート後の活動で、教材曲の曲想にあった演奏の仕方を工夫する様子が見られたり、他の学校では休み時間などに鍵盤ハーモニカを取り出して吹く児童がいたという報告をいただいたりと、いずれの学校でもコンサートは概ね好評であったとあっていいであろう。B小学校長からは、来年もぜひにと、ありがたいお言葉をいただいた。

A小学校の児童からはお礼の手紙が届いたので、その中から一部を紹介したい。

- ・けんばんハーモニカが今までよりも大きくなりました。
- ・いろいろなけんばんハーモニカでいろいろなきょくをひけることがわかりました。
- ・またききたいです。
- ・いろいろなけんばんで、それぞれちがう音がでるんだとおもいました。
- ・けんばんハーモニカのことがよくわかりました。
- ・けんばんハーモニカをうまくなりたいです。
- ・けんばんハーモニカでながてなきょくをチャレンジしてひいてみたいです。
- ・こんなふうに分もなりたいなと思いました。
- ・すごいと思ったきょくは、おもちゃのへいたいです。ながれた音がとてもこまかくて、すごかったです。
- ・ピタゴラスイッチは、ふえみたいな音がでていておどろきました。
- ・ピタゴラスイッチは、テレビとおなじ音がきこえました。

これらからは、鍵盤ハーモニカや演奏に対する興味や意欲の向上、コンサートへの興味、印象に残った曲の音色や曲想に注目したものなど、多岐にわたる感想を持ったことが読み取れる。今回のコンサートをきっかけに、鍵盤ハーモニカはもとより、音楽に対する興味・関心が高まり、生涯にわたって音楽と関わることを期待したい。

課題は、訪問する学校では、給食や清掃の時間などの学校生活でどのような曲を使用しているか、これまでどんな楽曲に触れてきたかなどの情報収集が必要であるということである。今回、B小学校では、コンサートの最中に、児童の発言から《シンコペイテッド・クロック》が清掃の時間に流れていることを知った。このような情報を事前に持っていれば、プログラム構成の際に考慮に入れることもでき、普段聴いている演奏と比較鑑賞することで、音楽の多様さにも気づいてもらえるのではないかと考える。

また、今回は小学校のみの依頼であったが、コロナ禍前のように幼稚園や保育所から、小学校のみならず中学校や高等学校などからの出前コンサートの依頼がなされるよう、地道に活動を続けていきたい。鍵盤ハーモニカは小学校まで、という固定観念がまだまだ根強いが、昨今では大人の愛好家も増えていくことから、中学校以上の多くの世代に演奏に触れてもらい、鍵盤ハーモニカ、ひいては鍵盤ハーモニカを通して音楽と豊かに関わる生活を提供していきたい。

1 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル ～「学校の新しい生活様式」～（令和2年12月3日改訂版）初出 リンク切れのため以下参照：小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校において合唱等を行う場面での新型コロナウイルス感染症対策の徹底について（通知）（令和2年12月10日）pp.2-3
https://www.mext.go.jp/content/20201210-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf（最終確認：2023年3月31日）

2023年3月31日 受理

Report on the Practice of Delivery Concerts with Keyboard Harmonica

Emi ARAI